

保護者の皆様へ

大阪産業大学附属高等学校
校長 平岡 伸一郎

2019年度 アンケート結果のご報告

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。さて、学校教育法の改正に伴い学校評価が義務づけられるようになりました。本校では生徒に「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」「学校生活についてのアンケート」とともに、授業科目ごとの「授業アンケート」を実施しています。2019年度のアンケート結果を踏まえて、その分析と今後の課題を明らかにします。なお、アンケートは、3学期に実施しており、高校3年生は卒業式を迎える直前で登校していないので、1年生・2年生を対象にしています。

1. 「授業アンケート」の結果について

「授業アンケート」の結果は別表の通りです。アンケート結果については、各教科担当の教員に担当クラスごとに結果を戻し、自身の授業内容についての「振り返り」の材料として、次年度の授業内容の改善に役立てるようにしています。以下、各クラスで実施したアンケートを集計し、特進、進学系列それぞれ学年ごとにまとめた結果について見ていきます。

まず全体的な特徴として、教員の授業内容や授業に臨む姿勢に対する質問に対して、肯定的な回答の数字の高さが目立ちます。2018年度のアンケートでは例年と比較すると、肯定的な回答の数字が際立って高かったのですが、2019年度も2018年度と変わらぬ数字の高さとなっており、特に特進においてその傾向が顕著です。以下に例として、授業内容についての質問項目④、⑨について、この3年間の回答の数字を示します。

④授業はわかりやすいですか

	年 度	特進1年	特進2年	進学1年	進学2年
分かりやすい	2019	73%	75%	62%	69%
	2018	70%	72%	67%	72%
	2017	62%	66%	64%	61%

⑨授業を受けて、この教科・科目について興味が深まったと思いますか。

	年 度	特進1年	特進2年	進学1年	進学2年
興味が深まったと思う	2019	53%	55%	45%	55%
	2018	54%	53%	52%	58%
	2017	41%	42%	49%	44%

本年度も昨年度に引き続き、落ち着いた生徒が多く、授業態度にもその雰囲気が反映され、前向きに授業に取り組んでいる生徒が多いのが、肯定的な回答の数字の高さに表れているようです。

また、2018年度から2019年度にかけて学年が上がっても、肯定的な回答の数字は上昇しております（前ページ表中矢印）。これらの結果から、生徒たちは学年が上がっても学習に対する意欲、関心を失うことなく維持し続けているのがわかります。

次にそれぞれの質問項目について考察していきます。

①「黒板の字は大きく読みやすいですか」の質問に対して、9割前後の生徒が「ちょうどよい」と回答しています。ただ、板書についてはテクニックを必要とせず、教員の心がけ次第で、適切な大きさと読みやすい字は書けるので、まだ数値を上げていくよう取り組みます。③「授業のスピードはどうですか」の質問には約8割、特進2年では約9割の生徒が「ちょうどよい」と答えたものの、「もっとゆっくり」と回答した生徒も十数パーセントおり、生徒の理解力に合わせた授業展開の難しさがうかがえます。

④「授業は分かりやすいですか」の質問には、7割前後の生徒が「分かりやすい」と回答しており、「どちらかという、分かりやすい」の回答も含めると90～95%となっています。この数字は⑦「授業は、先生の問いに答えたり発表したりするなど参加しやすいものですか」の質問に対する回答の数値とほぼ対応しています。教員が授業に参加しやすい雰囲気を作ることで、生徒が授業への参加意識を持ち、自ずと教員の話に耳を傾け、授業に集中することになり、それが結果的に授業内容への理解力を高めたと考えられます。⑤「授業は、プリント教材や色チョークでの板書など工夫されていますか」、⑥「授業は、生徒の疑問や質問にきちんと応えていますか」の質問に対する回答の数値が高いのも、生徒が授業に対して参加意識を持っているからこそ、教員の授業への工夫に気づくことができ、授業を受けて多くの疑問がわいた結果だと思えます。

⑨「授業を受けて、この教科・科目について興味が深まったと思いますか」、⑩「授業を受けて、学力がついたと思いますか」の両質問に対する回答の数字もほぼ対応しています。それぞれの質問に対する回答は、「興味が深まったと思う」「どちらかという、興味が深まったと思う」の回答が約9割、「学力がついたと思う」「どちらかという、学力がついたと思う」の回答も約9割となっています。教員が興味・関心を引く授業をすることによって、生徒も知らず知らずのうちに授業にのめり込み、それが学力向上につながったと考えられます。⑭「この教科の内容は理解できますか」の質問に対する回答、「理解できる」「だいたい理解できる」も⑨、⑩の回答の数字と対応しても不思議ではないのですが、なぜか回答の数字が少し下がります。学校での授業内容を定着させるためには、家庭での反復学習が必要と言えそうです。

2. 「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果について

授業を受ける態度についてのほぼすべての質問項目において、学年が上がるにつれ自己評価が向上しています。特に特進コースにおいてその傾向が顕著に表れています。

⑨「授業に積極的に参加している」の質問に対しては、「どちらかという、積極的に参加している」まで含めれば、約8割の生徒が授業に対して前向きに取り組んでいる様子が見えます。学習についての自己評価では⑪「宿題や課題があればきちんと取り組んでいる」の質問では、特進・進学系列とも9割以上が取り組んでいると回答しています。ただ、⑫「学校の図書館や自習室をよく利用している」、⑬「1日に家庭学習をどの位していますか」の質問では、特進では学年が上がるにつれ、自習室の利用者や

家庭学習時間の数字が上昇しているのに対し、進学系列ではそうした傾向が見られません。進学系列の生徒たちに、毎日の学習習慣を身につけてもらうための教員側の工夫が必要といえます。

3. 「学校生活についてのアンケート」の結果について

⑮「この学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」、⑯「この学校の先生は生徒指導にしっかり取り組んでいる」の質問に対して、「よくあてはまる」「ややあてはまる」あわせての回答がそれぞれ85%、92%となっており、生徒たちが教員の指導に信頼を寄せてくれているのがわかります。

⑰「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」の質問に対して「よくあてはまる」「ややあてはまる」が91%、⑱「この学校の生徒は、学校生活に積極的に参加している」の質問に対して、同じく90%と回答があり、本校の伝統ともいえる、生徒が挨拶を積極的に行い、学校行事に積極的に取り組む姿を自分たち自身でも評価していることがうかがえます。

一方で、⑲「この学校の生徒は、遅刻しないように努力している」、⑳「この学校の生徒は、校則を守っている」の質問に対しては、「あまりあてはまらない」の数字が他の質問より高くなっており、自律的な生徒を育てることの必要を感じます。